

高学年児童に向けた小学校英語 —天気をテーマとした英語活動の開発と実践—

垣内 信子¹⁾ 坪田 幸政²⁾

¹⁾千葉大学・教育学部附属小学校 ²⁾慶應義塾高等学校

Elementary school English toward the upper grades child

—The development of English activities which made the weather a theme and practice—

Nobuko KAKIUCHI* Yukimasa TSUBOTA**

*Attached Elementary School of Chiba University **Keio Senior High school

「総合的な学習の時間」の創設以来、多くの小学校で「英語活動」と呼ばれる英語教育が盛んに行われるようになった。中学校では英語は教科であり、学習指導要領に準拠した学習内容を指導している。小学校の場合は、学習指導要領に細かい規定が無く、児童や地域の実態により、学校や地域の裁量で英語の指導が行われている。そのため、中学校の英語教育と比較し、小学校ではより多様な活動が展開されている。児童の生活実態に即した身近な口語表現を中心に、外国人教師と一緒に授業を進めている学校も多い。

このように小学校における英語教育の気運は高まっている一方、「英語の時間」の運用方法と指導者の技量の問題点が指摘されてきた。しかし、最近の小学校英語に関する論議は、指導方法や指導内容が中心となりつつある。これらの問題点を明らかにし、改善していくことが、これからの小学校英語を展望していく上で重要である。

本稿では、小学校英語を教科横断的にとらえ、その実践例を紹介しながら、小学生と英語の望ましい関わり方について考察した。そして、小学校現場の特性を見据え、児童（特に高学年児童）の知識や興味に根ざした活動内容や今後のあり方について提案した。

Since the establishment of “general education” at many elementary schools, the flourishing English education is being called “English activities.” In the junior high schools, the guided contents of learning for English are based on the course of study. Managed under the discretion of schools and the community, from the actual conditions of the cornfields and students, elementary schools do not have detailed restrictions on English education. For that purpose, if we compare junior high school English education to elementary school English education, junior high schools have more developed activities than elementary schools. There are many schools that use foreign teachers to conduct English classes where the focus is on the expression of words, which can apply to the student’s daily lives.

Some subject have pointed out the trend of English crack education at elementary schools are increasing. So far, the way of applying “English Time” at elementary schools was a big problem due to the leader’s incompetent abilities. But, a discussion about guiding the class and the contents of guidance comes out nowadays, too. It is important to improve elementary school English for the future and to address the problems and fix it. We want to think about the way that English is desirable and that it is concerned with the schoolchild in this paper through introducing practical examples of elementary school English being taken from the viewfinder of subject crossing. The appeal of elementary school is to provide knowledge and activities that raise the interest in children.

キーワード：気象 (Weather) 天気予報 (Weather forecast)

小学校英語 (English Education for Elementary school) 高学年児童 (The upper grades students)

単元開発 (The development of English unit)

1 はじめに

文部科学省の「平成15年度小学校英語活動実施状況調査」には、英語活動と呼ばれる英語教育が全国の公立小学校の88.3%で実施されたと報告されている。実施学年の割合は、学年が上がるほど高くなっている。内容的に

は、「歌やゲームなど英語に親しむ活動」が最も多く、次いで「簡単な英会話の練習」「英語の発音の練習」が多かった。(2004. 6. 25付 日本教育新聞)

従来、小学校現場では、「英語の時間」の運用方法と指導者の技量が大きな問題点であった。しかし、前者については、各学校で弾力的な時間運用をすることで、また、後者の問題についても、外国人英語教師の派遣や地域の人材を登用することで解決が図られてきた。

連絡先著者：垣内信子

最近の小学校英語に関する論議は、指導方法や指導内容が中心になりつつある。これらの問題点を明らかにし、改善していくことが、これからの小学校英語を展望していく上で重要である。

2 小学校における英語教育の現状

小学校における英語教育については、既にいくつかの研究開発校が指導カリキュラムを作成し、実践している。それらのカリキュラムの特徴は、子どもの日常生活にかかわる身近なテーマを学習の基本に置いていることであり、中学校における教科書を中心とした文型の積み重ね型とは異なる。多くの場合、音声言語を中心とし、文字の「読み書き」は行っていない。本校でも、言語によるコミュニケーション能力を育成することを重視している。

たとえば、「友達」「動物」「色」「スポーツ」「数字」「行事」などの各テーマについて、2～3回ずつの学習をする。テーマで登場する言語表現を、ゲームにしたり手遊び歌にのせたりしながら練習させることによって、児童を飽きさせることなく、楽しい雰囲気のうちに進めていくことができる。この方法では、扱う語彙数を増やしたり、また、日頃使われている英単語の発音を習得させたりすることが可能となる。

また、スキットなどで「本時の表現」を最初に提示し、それを練習していくという活動パターンで、決まった表現をそのまま覚えさせる場合も多い。

しかし、多くても年間35時間程度という短い時間枠で、互いに関係の無い各テーマを短時間で扱うため、既習事項を定着させ、それを活かしながら表現力をより豊かにさせていくことが難しい。

たとえば、小学校でよく行われている活動で「買い物ゲーム」というものがある。買い物をする際に必要な言い方を覚え、「ごっこ遊び」を通して、買い物の仕方を練習するのである。

Customer: How much is it ?

Salesclerk: It's 200 yen. Here you are. Thank you.

Customer: Bye-bye.

というような決まり文句を使って、児童が店の店員とお客の役に分かれてゲームを行うのである。買う品物がそれぞれの店で変わるのだが、上記のようないずれも決まり文句だけをつかった単調なやりとりの繰り返しである。また、子ども同士の活動にまかせると、ゲームそのものが楽しくなってしまう、発音もぞんざいになってしまう。

外国語を全く知らない児童に、英語には一定のパターンがあることを口写しで教えることはとても重要である。しかし、それは英語のリズムやイントネーションといった英語特有の「音」に関することであり、話の内容のことではない。単に暗記させるだけでは、時と場に応じた自分なりの表現ができず、生きた英語を学んでいることにはならないであろう。

「買い物ごっこ」のように、会話を続けていっても、答える内容が容易に予想できてしまうような質問内容や場面設定だけでは、相手の話を聞き取ろうとする態度や答えを見つけたかそうとする思考力が養われない。これで

は、私たちが日常的に行っているコミュニケーションとは程遠い活動になってしまう。

また、1年生からの積み重ねが無く、高学年になってはじめて英語活動を実施するようになった場合はより問題が大きい。1年生が喜んでやるようなテーマ設定や活動内容ではすぐ飽きてしまう反面、英語による表現力が豊富なわけでもないからである。

そこで、高学年からはじめる英語活動には、比較的簡単な英語表現だけで彼らの知的好奇心を刺激するような、達成感のある教材開発が必要であると考えた。

3 天気をテーマとした英語活動

高学年児童には、高学年児童にふさわしい活動内容を考えていく必要があることを述べてきた。しかしながら、既存の教材や指導方法は低・中学年児童をターゲットとしたものがほとんどであり、高学年児童の発達段階に合致したものが多くない。低・中学年児童は繰り返しを嫌がらず、歌やゲームを通じて楽しみながら自然に英語に慣れ親しむ。しかし、4年生の終わりくらいになると、自意識が顕著になり、行動に変化が見られる。例えば、歌遊びに参加しなくなる児童が出始め、単純な言葉の繰り返しを嫌がるようになる。人の目を意識するようになり、積極的に発表することが少なくなる。

図1、2は、2004年6月に、中学1年生170人を対象に行ったアンケート結果である。

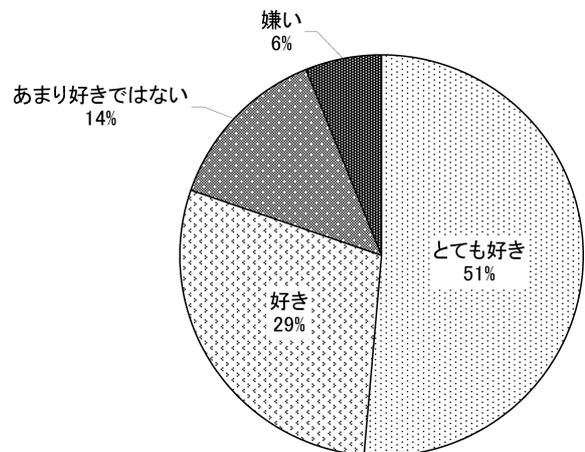


図1 小学校のときの英語

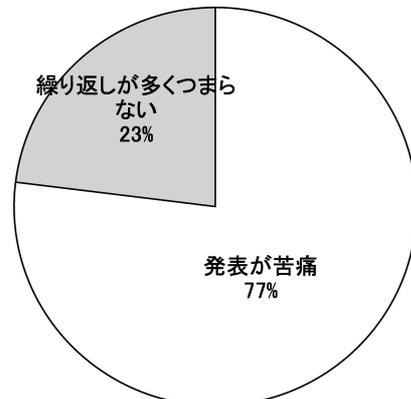


図2 嫌いな理由

この結果から、高学年児童を対象とする授業を行うときは、次の点に留意したい。

- ① 個人の英語力を個別に評価するようなことはせず、学級やグループといった集合体の伸びを評価する。
- ② 児童がもっている英語以外の知識と連結させるような授業内容を組む。誰かが言ったことをそっくりそのまま覚えるのではなく、場と状況に応じた受け答えができるようにする。

そこで、「教科横断型の英語」という視点から高学年児童の知識や能力に合致した内容を考えていくことにした。各教科で得た知識や生活経験を活かし、それらを連結させ英語活動の中に構成する。

今回は「天気」をテーマとして、単元開発を行うこととした。天気は日々刻々と変化するため、天気に関する受け答えをする場合、リアルタイムで考え、会話しなければならない。「天気」については、いろいろな教科のカリキュラムの中で既に取り上げられている。4年理科の「気温の測り方」や5年理科の「天気の変化」、5年社会科での「日本の国土と産業」で学習してきたことを活かし、天気の表現と結びつけていくことができる。世界地図やVTRを使ったり、インターネットを使ったりして、世界各都市の天気の状態を調べ、それを英語で表現させてみたい。

また、英語活動ではsunny.rainyなどの単語を学習し、How is the weather today? と聞かれたら、It's sunny. と答えることをイラストなどを使って何回か練習することもしてきている。4年生くらいまでならここまででよ

いだろうが、高学年児童の場合は、もっと応用をきかせた内容にしたいと考えた。そして、発言内容はグループで協議して決めさせ、どの児童にも発言の機会を与えように配慮した。

4 事前・事後調査

児童は小学校5年生の前半までに、教科学習においてどのようなことを学び、学んだことをどの程度定着させることができているのだろうか。

たとえば、4年生の算数の教科書（啓林館）を見ると、「東京とシドニーの年間気温の変化を折れ線グラフに表し、グラフから読みとれることを話し合いなさい。」という課題が出てくる。この作業から、児童は北半球と南半球では、季節が逆転していることを知る。

また、4年生の理科では、気温の測り方を学習し、1日の気温の変化を観測する。また、季節と身の回りの自然現象とを関連させながら、1年サイクルの気候変化を学ぶ。5年生になると、天気図を見ながら天気の変り方や天気予報の利用の仕方を考えたりする。具体的な気象についても学習する。

今回の授業は、5年生を対象とするため、彼らの興味関心・知識について、授業実施の事前と事後で以下のような調査を行った。

調査対象	対象児童 小学校5年生男女160人
実施年月	授業前（事前調査）2003.11 授業後（事後調査）2004.3

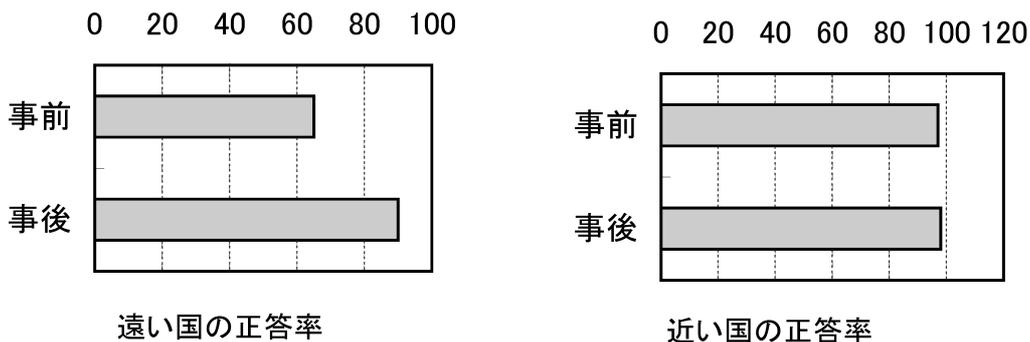
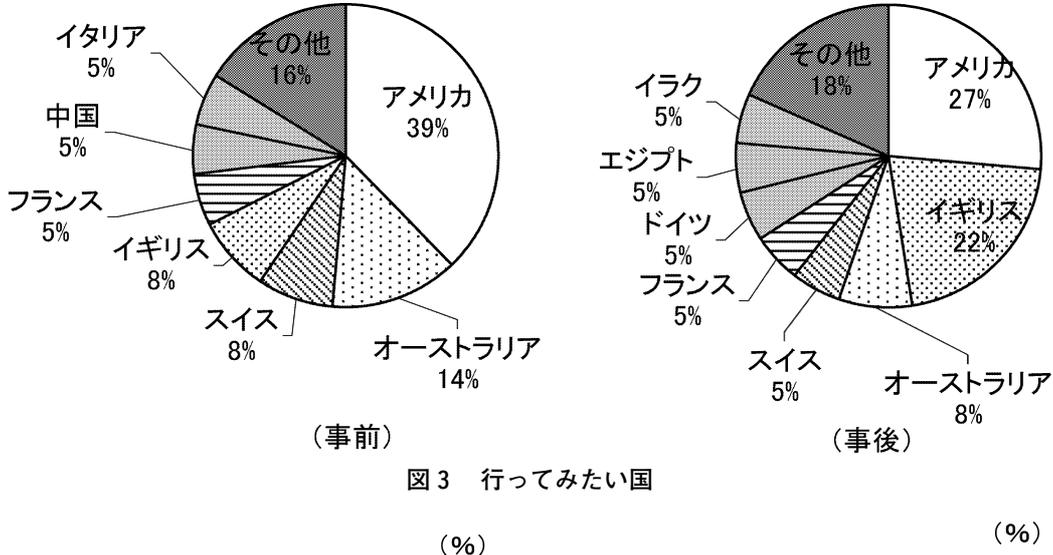


図4 日本から遠い都市, 近い都市

質問内容

- 問1. あなたが行ってみたい国を一つ書いてください。
 問2. 次の都市へ、飛行機を使って行くことします。日本から一番遠いところはどこですか。また一番近いところはどこですか。 モスクワ・ペキン・シンガポール・シドニー・ロンドン
 問3. あなたは、1週間のうち、天気予報をどのくらい利用していますか。

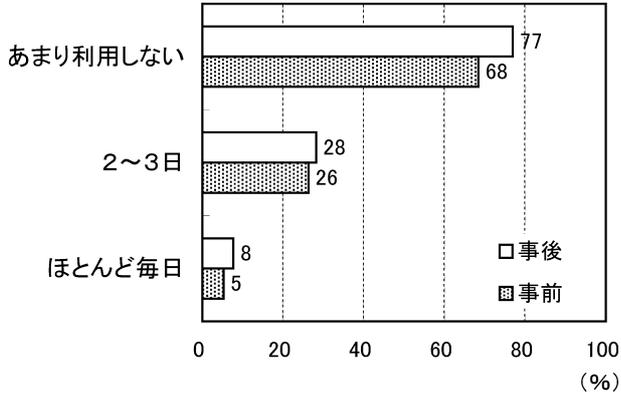


図5 天気予報の利用頻度

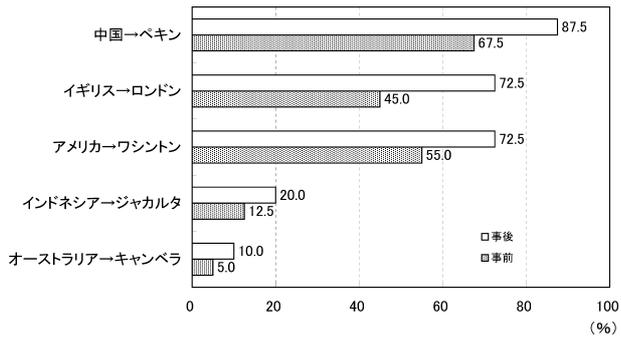


図6 首都はどこですか

- ①ほとんど毎日 ②2, 3日 ③あまり利用しない
 問4. 次の国の首都はどこですか。 アメリカ・中国・イギリス・オーストラリア・インドネシア
 問5. 次の都市はどの国の首都ですか。ナイロビ・モスクワ・パリ・ベルリン・バンコク
 問6. 下の欄に、世界地図を書きなさい
 問7. 次のような天気のととき、あなたはどのように感じますか
 気温30℃湿度50%晴れ・気温29℃湿度85%くもり・気温22℃湿度50%晴れ・気温15℃湿度55%
 問8. 天気に関することわざを知っていたら書きなさい。
 問9. 次の言葉の内、聞いたことがあるものに○をつけなさい。
 台風・ハリケーン・サイクロン・ヘクトパスカル・高気圧・低気圧・梅雨前線・秋雨前線・気象衛星・入道雲・うろこ雲・百葉箱・熱帯低気圧・温帯低気圧・高潮・エルニーニョ・雨量・降水確率

分析

「行ってみたい国」については、事前でも事後でも、半数以上の児童が、英語圏の国に行きたいと答えている。(図3)

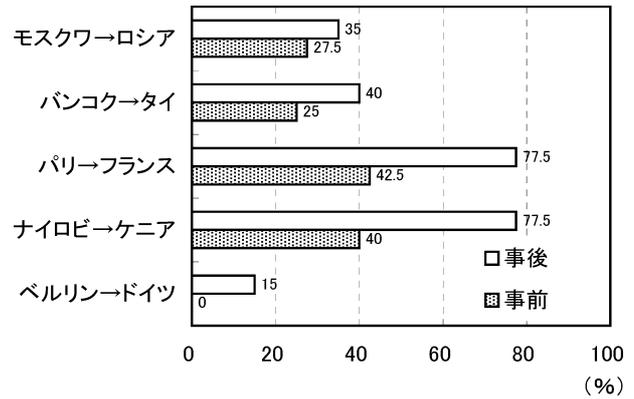


図7 どの国の首都か

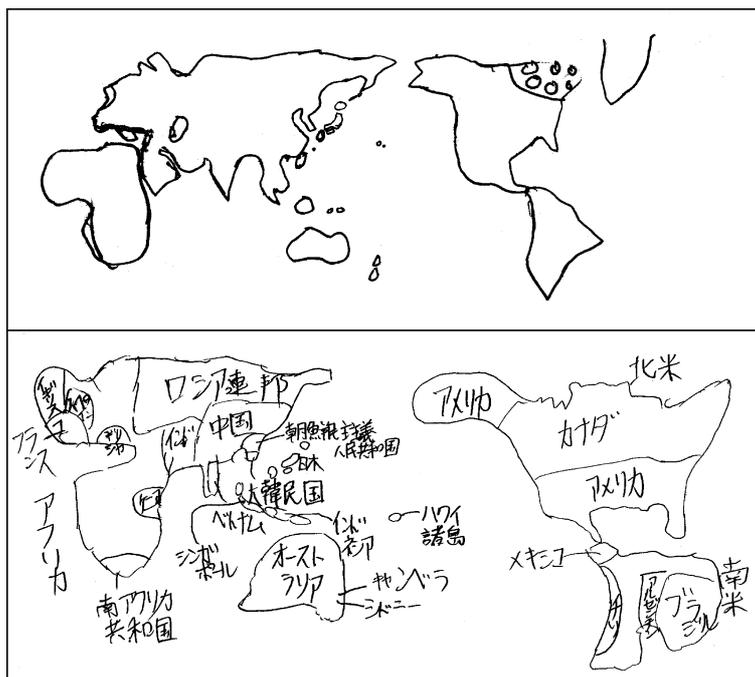
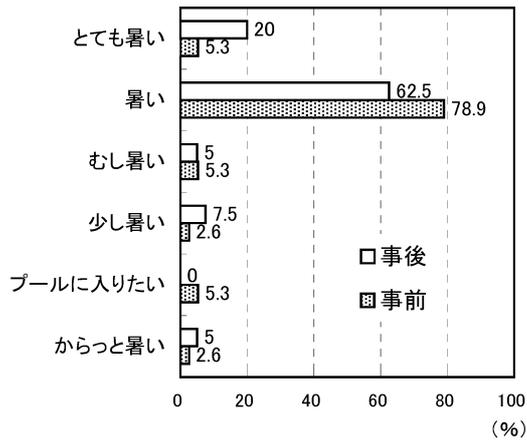
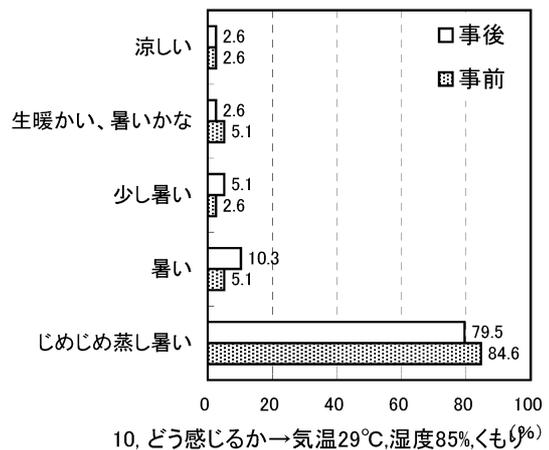


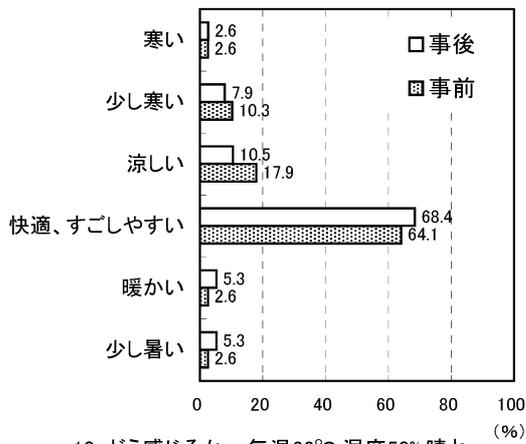
図8 児童が書いた世界地図 (上：事前, 下：事後)



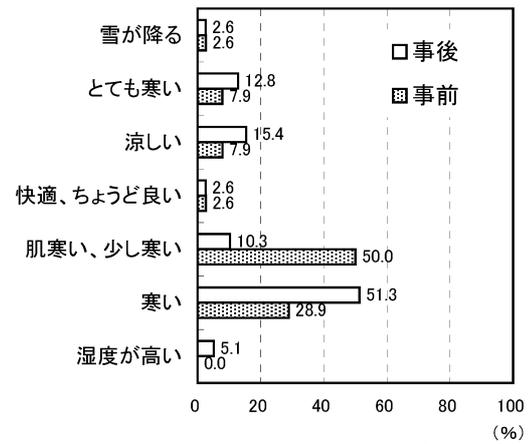
10. どう感じるか→気温30°C,湿度50%,晴れ



10. どう感じるか→気温29°C,湿度85%,くもり



10. どう感じるか→気温22°C,湿度50%,晴れ



10. どう感じるか→気温15°C,湿度55%

図9 天候が次のような場合、あなたはどのように感じますか

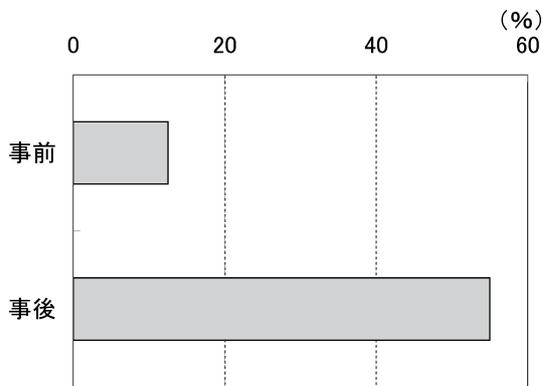


図10 天気のことわざを知っている

次に、選択肢の中から日本から最も近い都市と最も遠い都市を選ばせ、どの程度の地理感覚をもっているのかを調べた。正解は最も遠いところがロンドン、最も近いところが北京で、正答率は事後の方がいずれも上がっている。(図4)世界の各都市の天気を扱うには、どこにどのような都市が位置しているかを意識させる必要がある。

問3の結果は、山崎他(1)と同様の結果であった。(図5)

問4と問5では、国や首都に対する知識を調べた。事前では「アメリカの首都はニューヨーク」という誤答を出した児童が半数近くいた(図6・図7)。いずれの場

合も、事後調査で正答率が上がったのは、本単元で天気を通した世界の学習により、世界地理への理解が深まったためと考えられる。地図を開く機会が増え、メディアを通じて得られる情報と学習内容とを関連させて考える児童も多く見られた。

事前と事後の結果で、最も顕著に変化したのは、問6と問8である。事前では、ほとんどの児童がたいへん荒削りな世界地図しか描けなかったのに対し、事後では地名や赤道まで記入するなど、かなり詳しくかける児童が増えた(図8)。天気に関することわざについても、事後では書ける児童が増えた(図10)。授業の中で、天気に関することわざをいくつか紹介し、ことわざ集めをしたためだと考えられる。

問7では、「暑い」「寒い」などのような感覚を、どのような場合にどのように感じ取るのかを言葉で表現させた。ただ「暑い」と答えるだけでなく、「汗が噴き出るような暑さ」というような表現を使う児童もいた(図9)。低・中学年児童では、実際に、その環境に自分の身を置かないと「寒い」とか「蒸し暑い」とかというふうに表現できないのに対し、生活経験が多い高学年児童は文字情報だけでも、自分がどのように体感するかを想像し、多様な言葉で表現する能力をもっていることが分かった。

問9では、天気予報でよく使われる気象用語について、聞いたことがあるかないかで答えさせ、事前と事後で比

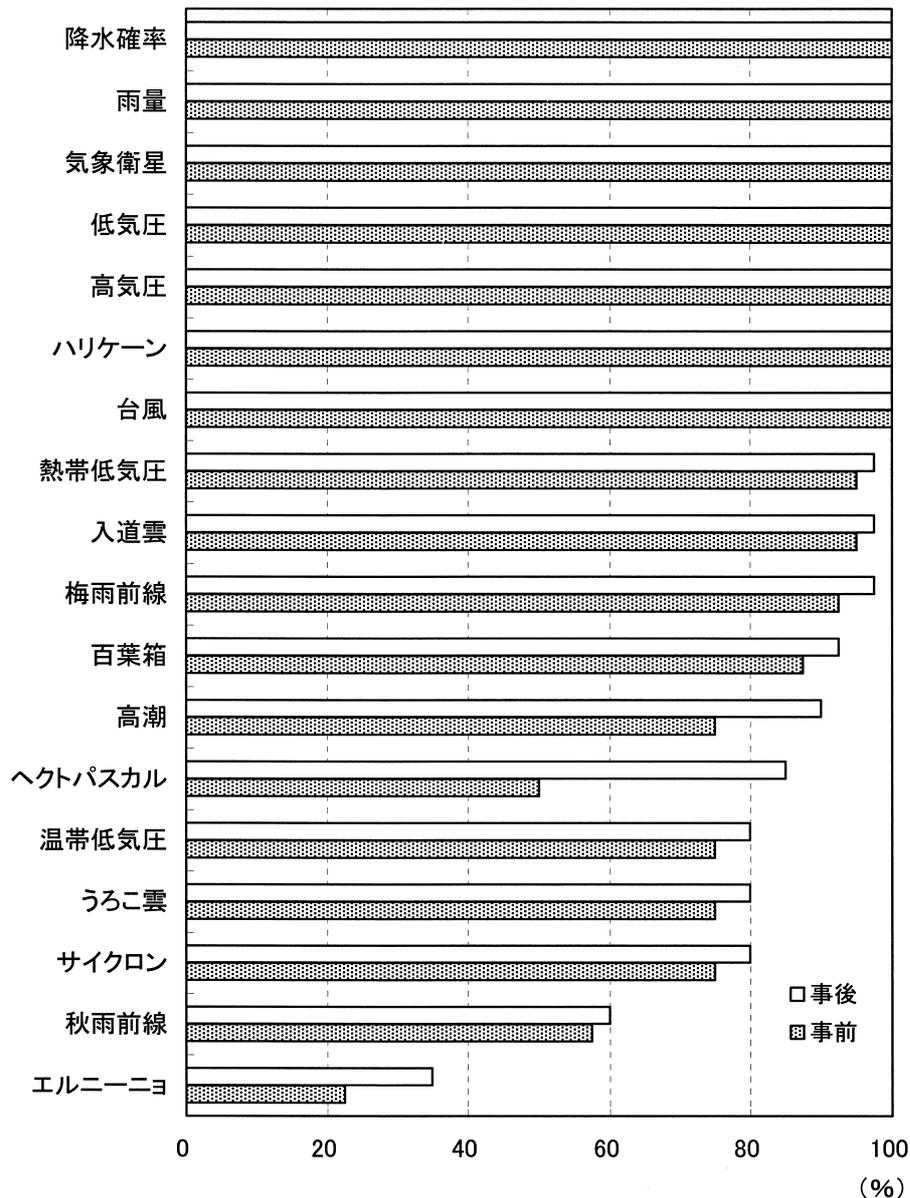


図11 聞いたことのある言葉

較した。事後では、新聞やテレビで扱われているこれらの気象用語が、児童にとってより身近になったといえよう。

5 授業実践

5-1 単元の目標

- ①sunnyやwindyなど、天気に関するいくつかの英語表現がわかる。
- ②外国の地名の言い方がわかり、天気と結びつけて表現することができる。
- ③地図や絵などを使って、積極的にゲームに参加することができる。

5-2 授業計画 (指導はいずれも20分)

予定指導時数

- 1時間目 予備調査
- 2時間目 予備授業
- 3時間目 天気の言い方を表す言葉を確認し、練習する。
sunny windy rainy snowy ……

- How is the weather? という問いに対し、It's sunny. It's rainyなどで答える。
- 4時間目 気象を表す言葉を練習する。このとき雷鳴や雨音が入っている効果音を聞かせ、聞いた音で天気の状態を言い当てるゲームをする。
雷 thunder lightning
嵐 storm tempest hurricane cyclone
How is the weather? に対し、It's rainy. It's lightning.で答える。
- 5時間目 1週間の天気調べをもとに、天気を表現する。既習事項である曜日を表す言葉 Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturdayと組み合わせる。How was the weather on last Wednesday? に対しIt was sunny.などのように答える。
- 6時間目 今日の気温を測り、英語で表現する。また、温度の表し方には摂氏と華氏があること、日本は摂氏で℃と表し、アメリカでは華氏が一般的でF°と表されることを知る。

また、気温に付随して、身体の感じ方の hot cold wet dryも学習する。

気温 temperature ・ ～度 degrees

7 時間目 天気とことわざ

日本のことわざを集める。日本には天気に関わることわざが実に多いことを知る。英語のことわざもいくつか紹介する。

8 時間目 世界の街と天気を結びつける。

United Kingdom (U.K.) Germany
United States of America (U.S.A.)
New York Miami Washington D.C.
Beijing London……

9 時間目 世界の天気と人の行動を結びつける。

It is snowy in London.
I make a snowman with my friend George.

5-3 予備授業の実施

(C = 児童の発言 H = 学級担任の発言 ALT = 外国人英語教師)

まず、4つの季節を「英語で何と表現するか」から始めた。SummerとWinterはすぐに出てきたが、春と秋は知らない児童も多かった。絵カードをつかって、ALTと何回か練習した後、天気の絵カードを使い

A : Sunny. It's sunny.

C : Sunny. It's sunny.

A : Rainy. It's rainy. ……

というように、天気の言い方を単独で練習。ここまでは、そんなに難しいフレーズではなく、スキルだけの練習なので、児童もあまり抵抗無く発言した。

次にALTと筆者で役割演技をした。

A : It's rainy. Do you have an umbrella ?

H : No, I don't. Can I use it ?

A : Sure. Here you are.

H : Thank you.

ここでは、天気に関する短い会話のやり取りをいくつか練習した。高学年児童はこのような役割演技をするときに、どうしようもなく照れてしまう。照れ隠しをするために笑ってしまい、ごく短い会話もスムーズに進められない。全員の前でひとりずつ発言させるのは、かなり無理があると感じた。

5-4 指導上の留意点

座る場所やクイズの答え方・点数のつけ方など学習中の細かいルールも事前に決め、周知させておく。また、児童を4・5人ずつのグループに分けておき、グループで競わせるようにする。構成メンバーは、子どもの性格を考慮し、グループ内の話し合いが活発にできるように組織する。グループの中で順番をきめておき、どの子どもまんべんなく発表できる機会をもたせる。発表するときは、全員にはっきりと聞こえるように言わないと点数にならないことも明確にしておく。これは恥ずかしい気持ちばかりが先だつては、とても外国人とコミュニケーションできるようにはならないからだと説明する。

グループ活動としたのは、多少間違えてもグループのメンバーが補ってくれるので安心感がもてるからである。しかし、グループ活動を進める上で注意すべき点がある。それは、グループ内の話し合いがヒートアップし

て、教師の話が通らなくなってしまうということである。そこで、注意を引きつけておくために、「よく聞いていないとできないゲーム」を導入することとした。これは同時に、人の話を最後まできちんと聞くことはコミュニケーションの基本であり、とても重要であることを指導したいと考えたためでもある。

5-5 教材・教具の準備

この単元を行うにあたっては、いくつか新しい教具を作る必要があった。天気を示す言葉を覚えさせるために、sunny rainyを表すやや大きめの絵カードや大判の世界地図を作った。この地図は生徒がゲームの最中に地名などを記入するので、白地図でなければならない。大きさは教室の移動掲示板にぎりぎり入る程の模造紙6枚分とした。模造紙を張り合わせ、地図をかきポスターカラーで着色し用意した。

地図にはりつける天気のマークもたくさん作成した。世界各都市の様子がわかる写真は、雑誌やインターネットのグラビアサイトから取り出し、教室掲示用とした。気温を実際に測るので、理科室から棒温度計を借りてきた。クイズやゲームでつかう絵カードや小さなホワイトボードはグループごとに分け配布しやすくする。

5-6 高学年児童にふさわしいゲームの創出

今回の単元開発で最も悩んだことは、目標を達成させるためには、具体的にどのような活動をさせればよいのかという点である。低・中学年には身体を使った歌遊びやフルーツバスケットなどのごく単純な活動をさせることが多い。高学年児童に対しても、このような遊び感覚の活動をさせている授業をよく目にする。

高学年児童には、同じゲームでも、彼らの発達段階にあった知的な内容をともなったゲームをさせたい。そこで、次の4つのゲームを創出した。

「今日の気温あてクイズ」

「気温8℃」という温度を人間がどう感じるか5年生なら十分認識できる。そこで、天気だけでなく、気温についてもHow is the temperature today?と聞き、今日の気温は何度くらいかグループで予想させる。実際に授業の中で気温を測り、答えを検証する。予想が当たったグループには点が入る。

何回かこのゲームをしているうちに、体感温度と実際の温度の差を縮めていくことができた。

「世界お天気マップ」

世界地図を広げ、ALTの言った通りに天気シールを貼り、書き込みをしていくというゲーム。これもグループで競わせる。例えば、It's sunny in New York. The temperature is 3 degrees.とALTが言ったら、地図の中からNew Yorkを探して、晴れのマークのシールをはったり、気温を書き込んだりする。正確にできたグループが勝ち。全てうまく聞き取ることができれば、「世界お天気マップ」が完成する。

「3 hints game」

大きな世界地図にお天気マークと気温のシールをはっておく。ALTがIt's summer. The temperature is 35°. This city is known for beautiful opera house. などのように、3つのヒントを言い、最後にWhere am I?と聞く。子どもたちはグループで相談して、該当する都市を

地図上から探し出す。この場合、第1のヒントで子どもは南半球だけを探せばよいことを知る。第2のヒントでは、気温が35℃のところを探す。候補がほかにもあるため、まだこの段階では場所が特定できない。第3のヒントで、オペラハウスで有名な場所ということで、シドニーという答えが出てくる。You are in Sydney.が正解となる。

「Picture Making Game」

ALTが3つか4つの短いセンテンスを読み上げる。児童は最後まで聞いてから、聞いたことをもとに、携帯用ホワイトボードに絵をかくゲーム。このゲームも最後までよく聞いていないとできない。この場面では絵の得意な子が活躍する。簡単な絵をすばやく描ける技量が備わっている高学年児童にしかできないゲームである。

5-7 本授業の流れ(表1)

5-8 授業記録から

(C = 児童の発言 H = 学級担任の発言 ALT = 外国人英語教師)

場面1 今日の気温当てクイズ

H: How is the weather today?



写真1 授業風景1

表1 本授業 2004. 2. 6実施 (HRT=Home Room Teacher ALT=Assistant Language Teacher)

児童の活動	指導の方法	
	H R T	A L T
○あいさつをする ○今日の天気について会話をする It's sunny. It's very cold. ○3hints game をする	○児童と元気よくあいさつをし、雰囲気作りをする ○児童と今日の天気について、会話する How is the weather today? ○ALTと例題をやり、前の時間の活動を想起させる	○児童と元気よくあいさつをする Good morning. How are you? ○児童と今日の天気について、会話する How about the temperature? ○例題を出す
ALT: I'll give you 3hints. Listen, be carefully. It's rainy and foggy. I'm in Europe. The temperature 2degrees. Where are you in? HRT: I'm in London.		
○ Picture Making Game をする ○ゲームを終了し、終わりのあいさつをする Good bye. See you.	○ゲームのセットを配布する ゲームのルールを確認する ○終わりのあいさつをする Did you enjoy English lesson? That's all for today. See you.	○問題を出す It's fine day. I'm in Sydny. The temperature is 28 degrees. I am swimming. That's all. ○本時の感想を述べ、終わりのあいさつをする See you next week.



写真2 授業風景2



写真4 授業風景4



写真3 授業風景3

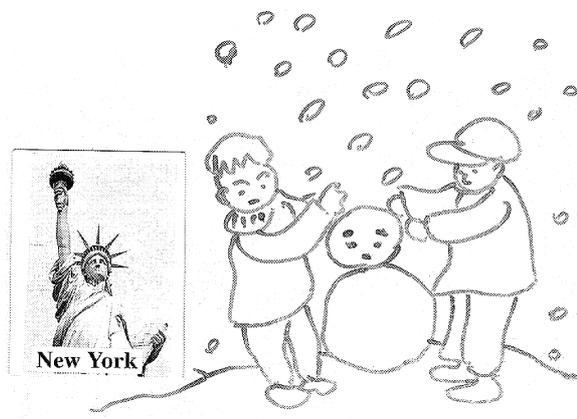


写真5 場面3 Picture making game

- C : It's sunny. It's very cold.
 H : Is it a beautiful sky ?
 C : Yes.
 H : Is it cold or hot outside ?
 C : It's cold.
 A : How about the temperature ?
 How the temperature outside ?
 Guess the temperature outside.
 C : 9 degrees.
 C : 8 degrees. ...
 H : OK, I'll check.
 A : OK. Actually... You know what ? It's 10 degrees.
 C : はずれた。おしい。(すべてのグループが答えをはずしてしまい、悔しがる児童)

場面2 3 hints game

- H : 3 hints game is very difficult.
 C : むずかしいってどういうこと ?
 H : そう むずかしい。OK ?
 C : OK. (「難しい」と聞いて喜ぶ児童たち)
 A : I'll give you 3 hints. Listen carefully. It's sunny and hot. I'm enjoying summer vacation. This city is famous for Carnivals. Where am I ?
 C : You are in Rio de Janeiro.

C : あたったあ。
 3 hints gameでは、カーニバルで有名なベニスとリオデジャネイロの写真を見せて、Which one do You like?と問いかけてみた。実は、この表現は今まで授業では扱ってこなかった。しかし、児童は何を聞いているのかが分かり、それぞれの児童がI like~の表現を使い、「リオが好きだ」とか「ベニスのほうがいい」などと英語で答えることができた。決まりきった表現をそのまま言うのではなく、自分の意志をうまく英語で表現することができるようになってきた。(写真4)

場面3 Picture making game

(ALTが問題文を読む)
 A : I am staying in New York. It stop snowing. My friend John and I are making a snowman together. That's all.
 児童はThat's allまで聞いてからホワイトボードに絵を描き始める。
 この問題ではどのグループも雪が降り続いたままの景色を描いていた。(写真5)
 間違いを指摘すると子どもたちは納得できないと言い出した。そこで、もう一度問題文を聞き、stopを聞き落としていたことに気づかせた。子ども達は大変くやしがついていたが、自分たちの聞き落としに気づいた。
 5-9 授業実践を振り返って
 今までにも、「天気」をテーマとした授業は行ってき

たが、低・中学年の授業では、sunnyやrainyなどの気象を表す簡単な言葉のみ扱って終わっていた。特に低学年では、物事を関係づける能力がまだ十分に育っていないので、なるべく単純で短い文でとどめていた。

今回の単元開発では、高学年の児童にふさわしい内容として、「天気」の中に「世界」という視点を付け加えた。世界の国々の呼び方（例：イギリスはU.K.）を知ったり、都市の様子にも目を向けたりすることができた。児童は、New Yorkは意外と寒いところであることや、南半球と北半球では季節が逆であるということを確認することができた。単元の中に、世界の地理や気候・文化などの要素を盛り込むことで、高学年児童の知的好奇心が一気に高まったと感じた。

休み時間に友だちと地球儀を眺めている子、地図を開いている子、空気の冷たさをじっくりと体感していた子、寒暖計をのぞきに行く子、というように子どもたちの行動に変化が見え始めてきた。英語のスキル以外の、いろいろなところに波及効果がみられた。40人の子どもがいるからこそ、ひとりひとりの個性が光るし、グループ活動も成立するのである。

今回の授業実践を終えて、児童にはおよそ次のような力が培われたと考えられる。

関心や態度の面

- 相手の話を最後まで聞く。
- グループで協議し、問題を解決する。

知識の面

- 世界の国々や都市の名前を英語ではどのように呼んでいるかを知る。
- 英語では天気や気温をどのように表現しているかを知る。
- 温度の表し方には、摂氏と華氏があり、その使用は国によって異なる。
- 北半球と南半球では、季節が逆である。
- 世界には、いろいろな文化がある。

上手な英語を話せるようにしたいなら、小さいときから繰り返し練習させればよいのかもしれない。しかし、言語の習得は、会話ができるようになればそれで完全というものではない。高学年といえ、ものごとを多角的にとらえることができるようになり、批判的な精神も芽生える時期である。抽象概念もきちんと言葉で表現できるようになってくる。単にネイティブスピーカーのような発音を身につけさせるだけでなく、内容的に、どのようなことを表現させていくのかという点が大事になってくる。

美しいものや印象深いものをどう感じ、どう表現していくかを考えていける子どもにするには、英語だけではなく、全ての教科領域の学習を大事にしていかなければならない。そこに、学級担任制をとっている小学校教師にしかできない英語教育の可能性があると思う。

6 まとめ

英語を第2言語として小学校で扱う場合、各学年の発達段階や特性・能力をきちんと見据えて行うことが大事だと考える。小学校の学習指導要領には、まだ英語が正

課として扱われていないため、現場の教師の裁量によるところが大きい。だからこそ、教師には児童の実態を的確にとらえ、児童にあった単元開発や教材開発をしていく努力が必要である。

大井（2004）は、「現状の小学校英語活動では、児童の発達段階にあまり注意が払われておらず、どの学年にも同じ言語材料が与えられてしまいがちである。高学年の知的的好奇旺盛の子どもたちに手遊び歌などを指導して授業が盛り上がりえないのはこのためである。」と指摘し、久埜（2001）の「小学生の特性を活かした英語学習」のモデルを紹介している。（図12）

このモデルの左側「特徴」は小学生の各発達段階をよく示している。右側の「言語材料や提示方法」の中身については、具体的にどのようなものを児童に示していけばよいのか、単元開発や教材開発という点で、今後の課題となるであろう。

最後に、小学校英語について次のような提言をして、まとめたい。3年生までの児童には、英語のネイティブスピーカーの声をなるべくたくさん聞かせるようにしたい。意味はわからなくても、繰り返すことを平気で受け入れられることができる年齢のうちに、ネイティブスピーカーの発音を真似させて、英語の発音やリズムを身体で覚えられるようにする。高学年では、それまでの学習を基礎に、英語と既習知識や日々の生活と結び付けた状況設定をし、多様な表現ができるようにする。そして、中学校や高校との連携も見据えた学習教材を開発していくことが必要である。

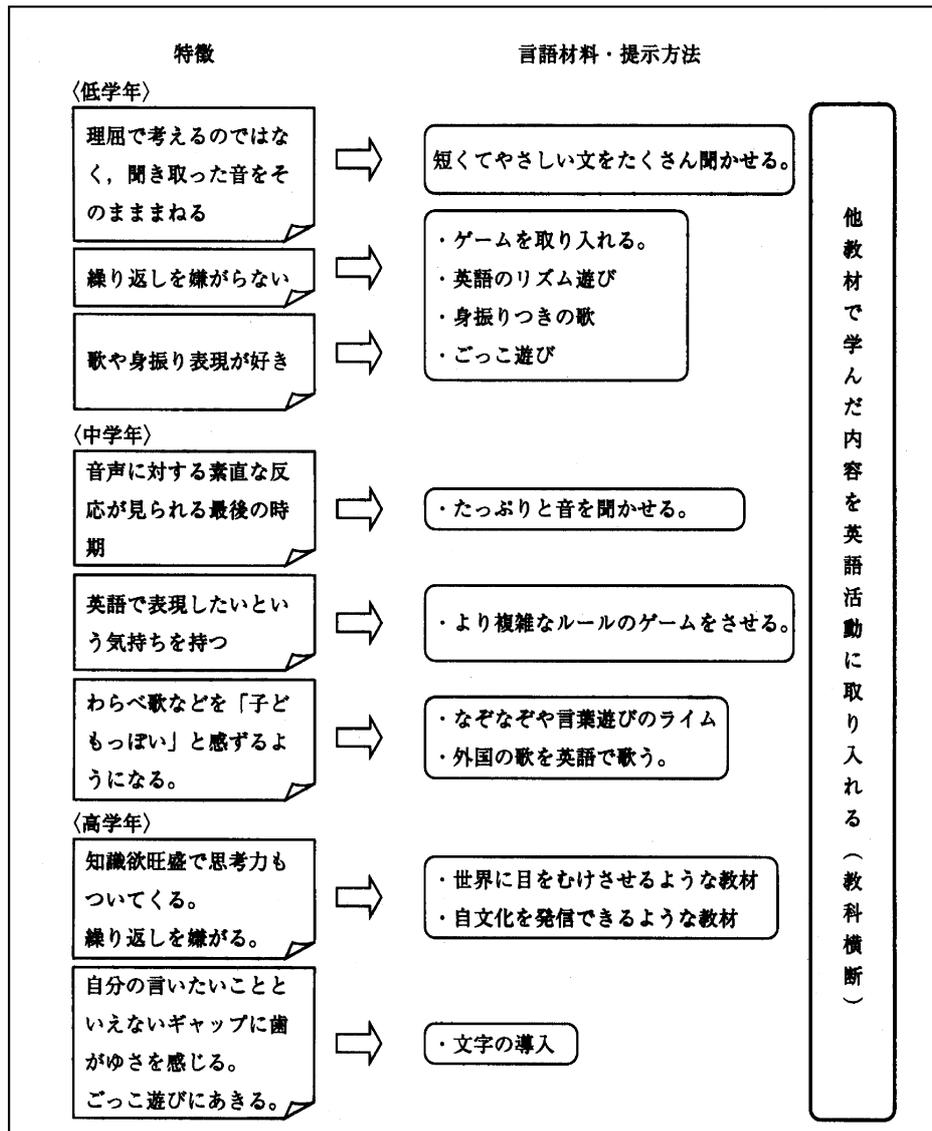


図12 小学生の特性を活かした英語学習（久埜（2001）を部改変の上著者ら作図）

7 謝 辞

アンケート結果を提供して下さった千葉大学教育学部附属中学校の皆さん、授業に協力して下さった附属小学校現6年生の皆さん、また、教材作りを手伝って下さった教育学部英語科の学生の皆さんに感謝いたします。

8 参考文献

- (1) 山崎良雄他, 2004, 児童・生徒・学生を対象とした気象に対する意識・知識に関する調査, 千葉大学教育学部研究紀要, 52 pp. 345-355
- (2) 戸田盛和・有馬朗人他, 楽しい理科4年上・下, 楽しい理科5年上・下, 2001, 大日本図書
- (3) 青木孝, いのちを守る気象学, 岩波書店, 2003
- (4) 安藤隆夫, ことばの民俗学「季節」, 1998, 創拓社
- (5) オリンボス, 村松昭男監修, 図解雑学気象のしくみ, ナツメ社, 1999
- (6) チャールズ・カイトリー, 澁谷勉訳, イギリス歳時記, 大修館書店, 1995
- (7) デイツクファイル, 倉嶋厚・高橋早苗訳, イギリス気象歳時記, 河出書房, 1994
- (8) 大井恭子・垣内信子, これからの小学校英語の方向性に関する一考察—ある国立大学附属小学校のケーススタディから, 2004, 千葉大学教育学部研究紀要, 52 pp. 209-223
- (9) 久埜百合, 小学校の英語学習を支える指導方法と教材, 樋口・行広編『小学校の英語教育』, 2002, KTC中央出版
- (10) 久埜百合, 子ども英語救急箱, ピアソンエデュケーション, 2002
- (11) 久埜百合, こんなふうにはじめてみては小学校英語, 三省堂
- (12) 西垣知佳子・垣内信子, 総合的な学習の時間における公立小学校での英語の導入, 2001, 千葉大学教育学部研究紀要, 50 pp. 275-289
- (13) 中央教育研究所, 小学生の英語の学習状況と理解力の調査研究, 2002, 『研究報告No. 61』
- (14) 川内市立平佐西小学校, 各学年の発達段階や中学校

- の英語教育との関連を踏まえた楽しい小学校の英語活動，2003
- (15) 成田市立成田小学校，研究紀要創造的学力への志向その23，2003
- (16) 文部科学省 小学校学習指導要領，2000
- (17) 文部科学省 中学校学習指導要領，2000
- (18) 文部科学省 小学校英語活動実践の手引き，2002
- (19) 啓林館 4年算数上，2002
- インターネットHP
- <http://esl.about.com/library/beginner/blweathervocabulary.htm>
- http://www.everythingsl.net/lessons/weather_vocab.php
- <http://english.bjta.gov.cn/tips/Learn7.asp>
- <http://www.bbc.co.uk/schools/whatisweather/teachers/lesson1.shtml>
- <http://www.bbc.co.uk/schools/whatisweather/index.shtml>
- http://www.metoffice.gov.uk/weather/symbol_key.html
- <http://www.bbc.co.uk/weather/features/symbols.shtml>
- <http://www.ny.airnet.ne.jp/satoh/index.htm>